

## 「京の食」産業振興プラン 第3回政策検討会議 結果概要

1 日 時 平成27年11月12日（木）10:00～12:00

2 場 所 ホテル ルビノ京都堀川 松の間

### 3 主な意見等

- ・ 海外展開において事前にリサーチやマーケティングを行う際、ハードルが高いのが渡航費にかかるコスト。大手であっても数回しか渡航できず、マーケティングが不足している例が見受けられる。何らかの支援が必要。
- ・ 良い商材をもっているのに、加工場の情報やパッケージデザインのセンス、商慣習の知識など、事業者によって商品開発のレベルに大きな差がある。コーディネーターによる商品のブラッシュアップを行う必要がある。
- ・ 費用対効果を考えると、インバウンドにおいて‘本物’を伝えるためのインフラ整備をまず行うべき。
- ・ 和食を海外に伝えるためには、マニフェストのように、わかりやすい言葉でひとくくりに表現することが必要。さらに、戦略的な仕掛け、プロモーションも求められる。
- ・ 多様な分野の人がつながり、オープンイノベーションを起こせる‘場’が必要。
- ・ 農商工連携においては、パッケージにデザイン性を求めようとしても、ビンや缶はロットが大きく、大企業でないとオリジナリティのあるものを作ることができない。支援が必要ではないか。
- ・ キーマンと成り得る若い人材を発掘すべき。キーマンの周りに人が集まり、キーマンが持つプランのイメージを形にすればよい。